

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 2

時局情報宣傳資料

昭和十六年九月十五日

皇國內外の情勢 (第六號)

極秘

情報局

● 注 意

- 一、本冊子は當局一情報官の作製せるものを連絡調整の上編纂したものである。
- 二、本書の目的は關係官の職務遂行上の参考たらしむるに在るも、内容には祕に屬するものあるを以て保存取扱ひに就いては特に注意を望む。
- 三、本冊子は情勢の變化に伴ひ、時々改訂せらるゝことあるを以て、改訂版を受領せば速に新資料と差換へ、舊資料は焼却せられたい。
- 四、本冊子は職務上利用すべきものなるを以て、異動等の場合には必ず後任者に引継ぐべきものである。

皇國內外の情勢(第六號)目次

は し が き

國際情勢	一頁
一、支那事變の現況	一
二、南方情勢	一五
三、歐洲戰爭の現況	二一
四、米國の對日經濟壓迫	二四
滿洲國の近況	三一
國內情勢	三五
一、時局に對する市民の動向	三五
二、國軍の體力問題	四〇
目 次	一

目次
附録 赤軍について……………二
……………三

はしき

獨ソ兩軍一千万の死闘は愈、深刻を極め、米獨關係惡化の一路を辿る中に、日米會談は試みられつゝある。國防産業整備に立遅れたる帝國の悩みが、かく帝國の立場を複雑化せしめて居るものと思はれる。しかしわが政策の進路は肇國の理想と皇國の使命とに立脚し、決して眼前の利害打算や功利的考慮で左右されるものではない。情勢時に小康を呈することあらんも之を以て難を避け得ると考へなば、これこそ恐るべき敵である。

國際情勢

一 支那事變の現況

西南方面の敵情

皇軍の佛印進駐に伴ひ支那軍當局は日本軍は近い將來更らに進攻作戦を行ふに非ざるかと憂慮し、雲南省内に中央直系軍約五ヶ師を増派することとした。張發奎は七月下旬以來蔣介石の命により支・印國境及欽縣、北海（共に廣西省）附近の海岸一帯に互り防禦築城を強化すると共に大規模なる道路破壊を實施中である。雲南に對する支那軍の移動はその兵力必ずしも大ならざる事（總兵力約十五ヶ師）國境築城を強化し道路網を破壊しあること等より觀て、日本軍の進攻作戦を著しく危懼したる結果斯の如く防衛の強化に努めつゝあるものと判断せられる。

又七月下旬僅少なる一部の支那軍越境佛印に進入せる事實あるも若干の物資を

皇國內外の情勢

獲得したる後自國內に遁入したる状況であつて、大規模なる佛印進攻の前徴とは認められない。尙一部の兵力緬甸に進駐し英支提携の下に緬甸方面の防衛を策しあるが如き情報あるも、緬甸南シャン州附近にあるは支那人を以てする緬甸外人部隊に非ずやと考へられ且つ又英支軍事同盟の如きは未だ具體化して居らない模様である。

以上述べたところより見るに、最近に於ける雲南方面への支那軍一部の集結は雲南防衛を主とし且つ雲南の徹底的中央化と緬甸ルート輸送力強化とを策するものであつて、支那軍大兵力の雲南集中に關する情報は英米の對日動向の積極化を狙つた支那側の宣傳であると推測せられる節が多い。

敵軍の給養状態

民國三十年(昭和十六年)陸軍臨時給養規則によれば、支那軍の俸給、主食、事務、設備及常備等の諸経費のみにて一ヶ月所要額七千五百餘萬元を要し、之に最近の物價騰貴に伴ふ主食補助費の増額を加算すれば、一ヶ月一億

元を越へ一年約十二億元以上の軍費を消費しつゝある譯である。更に之に被服費及作戰臨時費等を計上したならば一ヶ月約一億二千萬元を必要とする。以上は單に第一線軍隊の経費であつて更に之に第二線軍隊、保安團、官公吏、官營労働者等に對する経費を加へたならば相當大なる數字となつて居ることが想像せられる。しかも抗戰四ヶ年、この間敵側に生起せる各種の財政經濟上の惡條件は老大なる兵力(三百萬)の給養に相當の痛痒を感じしめあることは容易に看取られる處である。抑々蔣介石の建軍工作の成功を齎せる所以を考ふるに、一は中央軍官學校出身者を以てする人事の刷新であり、一は給養方式の中央一元化であつた。支那軍が今尙ほ崩壊するに至らず舊軍閥が中央の統制を甘受しあるのも茲に原因するところが少くない。法幣による通貨統一工作と相俟ちこの給養問題の如何は蔣介石の長期抗戰力を左右するものであつて、彼の謂ふ如く經濟問題が抗日支那の運命を決するものであると云へる。近い將來中央の財政が破綻を來し第一線軍隊が現

地に於て自活する状況濃化するに従つて、蔣の統制力は薄弱となり抗戦を不可能ならしめるに至る。現地に於ける敵第一線方面の給養は既に極めて悪化し、殊に廣東、廣西、浙江、綏遠及宜昌周邊地區等は最も顯著である。糧食の不足に次いで軍費支給の不良も漸く著しく、本年一月分の俸給を七月に支給したるが如きその一例に過ぎない。

この困窮状況に對し蔣介石は軍の崩壊を防止するため民衆の需要を犠牲に供するも軍隊の給養を確保せんものと努力して居る。しかし米の不足は一般物資の昂騰と相俟つて日一日と深刻化し或は追送と現地購賣との調和を圖り或は糧食管理處、兵站末地等を前方に推進し或は餘剩糧秣を不足地區に移讓せんとし、又前線將兵の購賣地域を制限配當する等諸種の手段を講じあるも、戰區附近の荒廢と米糧の公定價格低廉に過ぎるため取得に困難を極め、本年六月下旬に至り最後の切札とも言ふべき糧食を以てする直接徵稅その他の政策を決定したが、その圓滑

なる運営は殆んど不可能なるべきこと察するに難からず前線將兵の厭戰氣分の濃化、徵兵の回避、逃亡及歸順者の漸増等は不可避である。かくの如く中央の統制、給養に満足せざる結果第一線將領の一部には暗々裡に、中には堂々中央に具申の上兵力を以てする徵發、徵兵を敢てするものあり、漸次軍の現地自活の色彩を濃化し往年の軍閥的傾向を辿るに非ずやと豫感せられる。

以上の如き状況に鑑みわが經濟封鎖を中核とする對敵經濟封鎖戰の強化は相當の効果を發揮しあり之によつて敵の繼戰意志の動搖軟化に役立たしめ得るものと考へられる。

最近の歸順状況

本年五月以降全支に於ける支那軍の歸順總數は目下判明せるところに由れば、約一萬八千に達し、しかも逐次増加の傾向にある。最近は對共施策特に經濟封鎖の強化に伴ひ共產系軍小集團毎の歸順を見るに至つた。しかし此等歸順部隊の素質を見るに、正規軍の積極的歸順は大規模の進攻作戰の場合

の外一般に極めて稀であつて敗殘兵時として幹部が點々投降して來る程度で、多くは游撃隊系のものである。歸順の原因、動機は抗戰の長期化に伴ふ厭戰氣運の醸成特に給養補給の不良、不圓滑によるものが多い。正規軍系の歸順少ないは游撃隊の如くその蟠踞地に給養を依存せず中央より不足乍らも補給を受けつゝあること及び游撃隊に比べ軍紀嚴正、且つ上官の監視監督嚴なるによるものと思はれる。

歸順部隊の歸順後の動向は必ずしも良い結果を示して居ない。重慶側の誘引工作により重慶側に寢返るものもあり、或は歸順後の待遇等に不満を感じ逃亡するもの尠からず、歸順部隊は相當淘汰を行つた上、重慶側の工作の及ばざる地區に於て相當期間の訓練を行つた後始めて警備任務の一部を擔當せしめ得る程度に達せしめ得るものと云へる。

國共關係

最近獨ソ開戰の新事態から、新聞紙上等に於て國共關係に就いて

種々取沙汰されてゐるが、その殆んど總ての情報が國共兩者の宣傳的意圖を多分に包藏して居る。

中共發展の過程を検討して見るに、事變前の潜伏發育時代は勿論、對日戰開始後に於てもソ聯よりの援助特にその抗戰力量を増強すべき物資(軍費、兵器、彈藥等)の援助は殆んど之を受けず、全く自力を以て現在の地位を獲得せるものであつて國際共產黨の一支部としての色彩よりも、寧ろ中國民族独自の共產黨たるの色彩濃厚である。民族意識極めて旺盛で、抗日政策を以てその生命とし支那更生を冀求して已まず、好機に乗じて國民黨に代り中國の執政政權たらんとするの野望を有してゐる。之に對し重慶側の企圖するところは中共をして完全に重慶側に屈伏せしめ抗戰に驅使せんとするに存しその勢力の擴大は決して容認し得ざるところである。茲に中共勢力に對する重慶側の彈壓政策となり、累次に互る相剋事件が起つて居る次第である。

今次の獨ソ戦は對日抗戰過程に於ける一弛一張の兩者關係に一つの有力なる情勢を呈供せるものであるとは謂へ、相剋を必然的運命とする國共の本質的關係には何等の變化なきものと觀るを至當とする。しかし現實の問題としてはソ聯を背景とし事毎にその威を藉りた中共にとり獨ソ戦の生起せることは一應不利なるものと觀察せられる。

獨ソ開戦は必然的にソ聯の極東に對する壓力を輕減せしめ且つ從來樞軸、反樞軸兩者に對し不即不離の關係に在つたソ聯の態度の闡明化せる結果、重慶側にとつては、今後ソ聯の實質的援支力の減退に伴ひ何等對ソ關係の顧慮を要せずして中共壓迫の好機を得たものとも謂へる譯で、最近對共工作稍積極化し政治的に優位に國共調整を策謀してゐる様にも見られるが、何分にも中共壓迫の激化は對內的には抗日統一戰線に深い關係があり、對外特にA・B・C政策上には米國の意向もあつて、表面妥協的の平靜なる態度を装つてはゐるか、内實は依然中共壓迫の

手を緩めてはいない。尙これ迄中共は重慶側の英米依存を極力排撃して居つたのであるが、今回重慶側は今次ソ聯と英米合作の現實を指摘し、中共の態度是正を強要して居るとの情報もある。中共側はソ聯現在の窮況に鑑み、重慶側の壓迫回避及深刻な内面的苦惱（戦力の衰退及生存の困難等）の解消並今次の新事態によるコミンテルンの國際反ファシスト統一戰線の新方策に呼應せんとする意向を含んでのソ英米關係の緊密化に伴ひ更めて支那に於ける抗日統一戰線を強調し妥協的態度を表明してゐる。

しかしその眞意は飽く迄も自己勢力の保存強化であつて、若し重慶側が軍事的の壓迫を強化（陝甘寧邊區を除き事實上困難）しようとするればその態度を硬化し、相剋激化を來すことは必至であらう。

以上獨ソ戦勃發に伴ふ國共各中央の動向を述べたが、兩者の末稍に於ては別個の立場（生存権の爭奪等）よりその相剋は絶えず行はれてゐる。

重慶と英米關係

わが軍の南部佛印進駐に伴ひ、重慶側は日本軍の雲南攻撃（緬甸ルートへの遮断）の脅威感に因はれ、その防衛策として英米誘引工作に努力を傾注して居る有様である。しかし英米との見解には未だ相當の懸隔があり必ずしもその全面的支持を得るに至つて居らない模様である。

蒋介石は英米民主主義國間の各種交渉取極めに於ける支那問題除外及日本の雲南攻撃企圖に對する英米側の對日未警告の件に就いて相當不滿の意を有するも、今の處英米側は具體的に之に熱意を示してゐない模様である。但し今後に於ける日本の南進動向如何によつては更らに重慶と積極的に緊密化を圖るものとみられる。

今次のチャーチル英首相とルーズヴェルト米大統領の大西洋會談に對し各國は異常な關心を注ぎ、特に重慶側はこの會談中對日密議進行を豫測し、當然之が共同宣言に於て英米兩國の對日武力抗争の決意が表示されるものと期待して居つ

た。しかるに八月十四日公表された八項目に互る英米共同宣言は、具體的な内容に乏しく殊に重慶側の期待せる對日制裁に關しては何等言及する所なきに聊か失望の形で一般に英米が今尙對日工作の餘地を残しあるに非ざるやの疑心漫々たるものがあり、又最近切りに傳へられる日米會談も痛く重慶を失望させ、その成行を疑懼せしめてゐる様である。

英米の資産凍結の影響

英米の對日支資産凍結の措置及之に對抗する日滿支の施策の影響は詳細未だ明確ではないが、その後逐次判明せる狀況は概ね次の様である。

1. 英米の支那資産に對する今次の措置は、わが軍占據地區内の對外貿易及爲替取引を英米支三國の協同管理下に置き、日本側の外貨及物資の獲得を防止し更に舊法幣の對外價值の安定を圖らうとする重慶に對しては好意的凍結であるが、その準備不十分であつたため凍結令施行當初南洋、華僑その他在外支那人等

は多少困惑した模様である。

2. 英米の資産凍結措置の結果、上海の外國爲替市場は英米蔣の統制下に置かれ日本側銀行並商社は相當差別的待遇を受け不利となるべきも、物資の輸(移)出入はわが軍の統制並税關によつて日本側の左右する所となり英米側の經濟活動も制約を受ける結果となつた。

現に現地英米人は資産凍結に伴ふ情勢不安並商取引の困難等により最近上海を始め在支米人の歸國希望者は續出して居る有様である。

3. 舊法弊は凍結措置の結果、第三國貿易の縮少や日本側の統制強化、圓域貿易の擴大豫想等のため却つて弱化し、一時三片臺に低落したが法弊安定資金の運用を見たためか、八月十九日に至り對英三片三十二分の八と強化され、一方軍票は對英法幣四十二、五圓臺、聯銀券は對舊法幣五十五圓臺と夫々強調を示してゐる。

4. 英米の資産凍結措置は以前から盛に傳へられてゐたため日本側は之に對し豫め處置して居つたので、日本側商社等の直接的打撃は比較的輕易であつた。しかし將來英米系諸國との貿易減少によつて事業の縮少は已むを得ないことであらう。

之を要するに、英米今次の資産凍結の結果は、第三國貿易に關係ある日本商社に今後相當の不利益を與へ、また對第三國貿易の減少により我方の英米系物資の獲得を困難ならせると共に、わが軍占據地域内住民に打撃を與へることとなる。しかし一方では租界を含むわが軍占據地域から英米の退却の徵候と認むべきもの漸次表面化しつつある。英米が若しその在支權益を急激に拋棄するを肯せざる限り、結局我方と一時的妥協をしないわけにはゆかないことになる。又重慶側は華僑の凍結資産を利用して外國物資を獲得し得るのみならず英米の勢力下に居住する華僑に對する統制も強化できようが、日本及汪政權側を金融的に閉め出す結果

我占據地内民衆を重慶側地區の民衆と差別待遇せざるを得ない。従つて我占據地
域内民衆に對する重慶の政治的把握を困難ならしむるに至るであらう。

一四

二 南方情勢

南方華僑 去る七月下旬わが軍の南部佛印進駐により南方華僑が從來常に危
惧して居つた日本の南進政策は愈々現實し、抗日統一戦線の一角は既に崩壊を始
むるに至つた。

イ、佛印華僑(約三十二萬)

我軍の南部佛印進駐に際し國民黨安南總支部を中心とする抗日團體は、之が
對應策に就いて策動中であつたが、重慶政府よりの明確なる指令なかりしと、
佛印側の我方に對する全面的の協調によつて表面上我方に屈服するの止むなき
に至り、西貢に集積せられた援蔣資金並物資は速に香港に送付し以て我軍によ
り抑留されるのを豫防すると共に、我軍の行動に對しては一時傍觀的態度を以
て臨まうとしてゐる。今後相當の地下抗日組織は殘存するであらうが、一般華

僑は逐次對日依存による自己保身の道を選ぶに至るであらう。

一六

ロ、泰國華僑(純華僑約四十四萬、その他二百五十萬)

泰國華僑中一部の財閥は依然英米に煽動せられ買溜め賣惜み日本物資の取得妨害等により對泰經濟壓迫に策動してゐる。しかし大部は泰國政府の嚴正中立政策と同調し居住地の戰禍に見舞はれないことを希求して居る。今次我軍の南部佛印進駐と泰國の滿洲國正式承認、我國との通商條約の締結等により泰政府の對日接近の徵あるや、華僑は從來の重慶側との行懸りを棄て我方への接近によつて其經濟的勢力を保存せんと念願してゐる模様で今後我方の對泰施策進捗せばその傾向益々顯著とならう。

ハ、英領馬來、比律賓、蘭印華僑(マレー支那人百七十萬、蘭印支那人百二十三萬、フィリッピン七萬)

英米勢力下に在る此等の華僑は今次我軍の南部佛印進駐に依り日本勢力の南

進と日米開戰に對する危惧の念を益々深め、從來の蔣英米勢力に對する依存心は漸次懷疑的となりつゝあるも、前述せる如く英米側の對支資金凍結により經濟的に完全に蔣政權に統合せられたるを以て茲當分は好むと好まざるにと不拘、援蔣抗日の一途を進まざるを得ない。

佛印の現状

今次日佛印共同防衛協定締結に對する帝國の要求を全面的に應諾し且帝國陸海軍の南部佛印増派を平和友好裡に迎へドクイ總督、モルダン司令官以下一般の支持を受けてゐるが、官吏及軍人中にはド・ゴール派に屬するものも存在し、今尙ほ内心不滿がないとはいへない、安南人は一般に帝國の偉大なる推進力に驚歎し、其實力を充分認識する傾向にある。

泰國及英米の策動

日佛印共同防衛協定の成立、英米等の對日資金凍結或は對泰策謀の強化等四圍の情勢は一大變轉を示しつつある。この情勢下にあつて泰國政府は克く嚴正中立の態度を堅持し、國民も表面は政府の政策に一應信賴しあ

るが如きも、内心は相當の動搖を來しあるものと考へられる。

今次の新事態發生により同國に對する英米蔣等就中英國の政治、經濟及軍事的壓迫益、加重せられる虞があるので帝國の動向とも睨み合せ慎重な對策を講じてゐるが、八月一日敢然滿洲國を承認し同國の東亞共榮圈に参加するの意志あるやの態度を装つてゐる。

英米兩國の泰國に對する策謀は既に古き歴史と牢固たる地盤を有して居り、今次帝國軍の南部佛印進駐を契機として同國を繞る策動は愈、積極化して來た。特に泰國が滿洲國を承認するや其壓迫と牽制とを更に一段と強化し以て同國の對日接近を妨害し、延いては帝國の南進を阻止せんと努めてゐる。

1. 英國は帝國軍の南部佛印進駐に伴ふ泰國の危急を誇大に宣傳、自らは全然攻撃的企圖なきことを強調しながら、一方に於ては國境に兵力を増派してゐる。その兵力約五萬、別に緬甸に於て二、三千の華僑義勇軍を編成した模様である。

又英米兩國は我南部佛印進駐に對抗する手段として泰國に對し軍事援助に關する重大申入れを行ふと共に、英米兩國各、三百萬弗を限度とする對泰借款、米國石油會社による石油の供給を約せる反面、米國は泰國産の護謨、錫(英領マレーに近い方面に産す)の買占め等の經濟的懷柔手段を講じてゐるとの情報もある。

2. 英米兩國は八月六日相呼應して帝國の泰國に對する態度に就いて重大なる關心を有する旨聲明を發表した。

即ちイーデン英外相は下院に於ける演説に於て泰國にしてその獨立を脅かされる場合、シンガポール軍港は直接脅威せられるを以て日本が若し泰國に對し佛印に對すると同様の行動に出る場合には必然的に日英間に極めて重大なる事態の發生を見るべき旨を述べてゐる。又ハル米國々務長官は七月二十四日の佛印問題に關するウエルズ國務長官の聲明の精神は、泰國に對しても直ちに適用せられる旨を言明した。

3. 又八月十日頃ル大統領とチャーチル英首相は北大西洋上に於て會談、米國の帝國資産凍結實施並獨ソ戰終末後に於ける情勢變化の必然性を顧慮し、爾後の對樞軸殊に對日政策に重點を置き今後の對策に再検討を加へたるものの如く、更らに米、英、濠、加は近く合同して對極東會議を開催するに決定したが、右會議の中心が對日具體策の樹立にあることは必然であらう。

日、泰貿易狀況

日泰貿易は最近頃みに重要性を増すに至つた。本年上半期日本よりの輸出は四千萬圓、泰よりの輸入は約七千三百五十萬圓にして入超三千二百六十萬圓である。わが國よりの重なる輸出品は綿織物、機械類、紙類にして、泰よりは米、生ゴム、鑛物を輸入してゐる。

三、歐洲戰爭の現況

獨ソ戰況

獨ソ開戦以來獨逸軍の作戰進展狀況を検討して見るに次の様である。

開戦以來第三週迄は全線概ね齊一に前進してゐた獨逸軍も、第四週以來は局地的に進展を見せてゐる。即ち第四乃至第六週の間には中央ミンスクースモレンス方面に於て第六週乃至第八週の間には南方戰線に於て進捗を見て居る。九月初めから北方戰線は進展を見せレニングラード攻略戦は開始せられてをり、赤軍の統帥は漸次統一性を失ひ各個戰團の傾向に向ひつゝある。獨逸軍側も赤軍の量と能力を過小評價したる誤算があつたことと見られる。

さて戰場は九月半ばより雨期、十月半ばより冬期に這入り獨逸軍は既に之が準備に着手してゐる。

獨ソ戦局が獨逸軍従來の電撃型より稍、長期戦化したことは事實であるが、之を以て獨逸軍の失敗であると断定することは早計で、英米の宣傳戦に乗ぜられる恐れがある。茲一ヶ月の戦局が極めて重要であると謂はなければならぬ。

英ソ軍イラン侵入

地理的位置が歐亞兩大陸の要衝に當り、且つ世界的石油産地(年産一千百萬噸)依蘭に對し英、獨、ソの工作は熾烈を極めつゝあつたが、依蘭は飽く迄も中立を維持せんとするの態度を採つて居つた。英國は印度防衛の見地より依蘭を犠牲として之を利用せんとする準備を著々進めつゝあつたが、遂にソ聯と語らひイランの防備未だ整はざるに乘じ、依蘭在住獨人の活躍云々を口實として、八月二十五日突如英ソ兩軍は南北兩方より依蘭に侵入するに至つた。英ソ兩軍のイラン進駐はトルコに對する脅威となり獨逸の近東工作には若干不利なる情勢となつたことは免れない。

ソ聯の宣傳戦

最近に於ける戦争状況の發表は益々簡單となり且全線に互る

重要地點の放棄を逐次發表すると共に之と戦況交綏の状況とを巧に交錯させ、民衆に對し不利なる感作を興へざる如く努めつゝある。而して七月末以降のソ新聞紙及放送を概観するに獨逸の電撃戦は失敗せりとの各種の論説及記事を掲げ、モスクワ、レニングラード、キエフ等を六週間以内に占領せんとする獨軍の企圖は完全に畫餅に歸せりとなし、且獨軍の損害甚大にしてバルチザン戦が成果を收めつゝあること、獨軍占領下の歐洲各國の反獨熱大にして且其困窮甚しきこと、獨軍の暴虐振及英米兩國の對ソ援助等を誇大に報道し、民衆の恐怖心、敵愾心を煽りつゝある。報道に際しては「ソヴェト」なる語の使用を止め「ロシヤ」と稱して民族意識の昂揚に努めてゐる。又對獨宣傳に關しては獨逸要人に對する極端なる人身攻撃(血に飢える、ペテン師、人殺、掠奪、強盜、暴行者等)及デマの報道に大童となつてゐる。

四 米國の對日經濟壓迫

二四

米國の對日經濟壓迫と之が對策の大綱に就いては既に第一號に於て記述したので、茲には對日經濟壓迫政策の歴史的觀察を行ふこととする。

一九三九年一月米國の對日飛行機輸出禁止に初まり一九四〇年六月迄の一聯の對日經濟壓迫政策は逐次深刻化しつゝあつたが、米國は日本を目標とすることを宣言せず、自國の國防計畫遂行の必要上已むを得ずと云ふことを表面の理由となしつゝあつた。

我國が獨伊樞軸に参加するや、昨年七年ガソリンの對日輸出制限を行ひ、次て九月我が軍の佛印進駐に對する報復手段として屑鐵の禁輸を斷行して以來全然趣が變り、自國に有り餘る物迄も禁輸するに至り漸く對日經濟壓迫政策が表面化するに至つた。

爾來輸出許可制度が逐次強化せられ本年四月六日紐育發電によれば、

「今後相次いで新品目ガ許可制ニ編入サレル形勢ナリ政府ノ意圖ハ當初ノ純然タル軍需緊要物資ノ供給確保ニアリシガ次第ニ其意義ハ樞軸國ニ對スル經濟戰ノ展開ヲ根本方針トシテ來リタルハ注目サル」
のニュースがあつた。

かくて米の對日經濟戰の傾向は次の二方策をとるに至つた。

1. 對日輸出許可制品目の逐次追加による經濟封鎖の強化
2. 第三國を通じて間接經濟壓迫

イ、中南米諸國の共同歩調強要

ロ、對日接近國(泰、佛印)に對する對日離間政策

之が實施に際して英國と協議したことは勿論である。

第一項の政策は今日に於ては資産凍結令の實施に迄發展し、中南米諸國を通じ

皇國內外の情勢

二五

て行ふ對日壓迫は對日輸出制限強要等により一步を進めて本邦船舶「パナマ」運河通行禁止及び凍結令による弗決經濟貿易の杜絶となつて現はれた。又、泰佛印に對しては經濟政策より軍事的壓力強化に迄進展を見るに至つた。

以上對日經濟壓迫政策の推移より見れば、米國の企圖する所は逐次對日經濟壓迫を加重し、結局に於ては本邦經濟の全面的破産を願ふことは明かである。しかし全面的の禁輸を一舉に斷行し得ざるは（事實上杜絶に近い）

1. 日本の南進を刺戟し欲せざる時期に對日戰爭を誘發するの惧あること
2. 對日全面的禁輸による國內業者に影響があること
3. 對日政策上政策運用に餘地を保留し好餌を以て日本の對米政策を有利に轉回せしめる意圖があること

の故を以て全面的禁輸の如き動きのとれない決定的方策を避けて弾力性を保有し變法自在、情勢如何によつて政府の吐一つて全面的禁輸同様の効果を期待し得る

が如き凍結令政策を採るに至つた。

今日の事態から見て次に來るものは、

1. 金の買入禁止
2. 本邦の船舶に對する措置
3. 全面的禁輸への實質的移行

の方策であらう。或時期に於ては何等かの手段を以て本邦船を抑留拿捕する策に出でること、獨、伊の例を以てしても明かである。又凍結令の運用も歐洲戰の有利なる轉回と自國の戰備狀況によつては全面的禁輸を最後の切り札として出すことであらう。

かく日米關係が破局的危期に迫りつゝある情勢に於て近衛首相は八月二十七日太平洋問題に關するメッセージを米國大統領に手交し、日米關係のデリケートなる情勢に於て日米間の調整に就いて協議を進めることとなつた。巷間之を以て帝

皇國內外の情勢

國外交の大轉換なりと憶測するものもあるも當らず、三國條約締結當時賜りたる大詔の御精神に従ひ、その範圍に於て協議せられつゝあることは當然であらう。

對米經濟攻撃戰

物動計畫から見ても我國は、石油以外のものに就いては大體に於てやり繰りが付くことであらう。勿論之には幾多の困難を克服すべきことを前提條件とする。之に對し米國に日本が攻勢的な經濟封鎖戰をする手始として、逆に米國が所謂東亞共榮圈に依存せざるを得ざるもの、即ちわが制海權を通ぜざるを得ざれば手に得られないのは、大體に於てゴム、麻、錫、キニーネ、雲母(以上八十%以上)タングステン(四五%)マンガン(十五%)である。従つて積極的に日本が對米經濟封鎖戰を考へる場合には、これ等の資源を如何にして制するか、問題にならう。なほ参考迄に最近の日米貿易を紹介しておかう。數字は極秘につき取扱ひに注意せられたい。

日米貿易狀況

對米ブロック輸出入額

國名	輸 出		輸 入		入(△)、出超
	昭和十六年 上半期	昭和十五年 上半期	昭和十六年 上半期	昭和十五年 上半期	
亞米利加合衆國	二五九、五三三	二四、五三〇	四三、四四八	六〇七、〇七〇	△一八三、九六六
比 律 賓	二二、三九六	一四、二七三	四、二六一	二八、七六八	△三、九六二
其 他	五、一三六	五、八七七	一〇三	一、四三三	△五、一三六
計	二七七、〇六五	二四、六六〇	四八、八八一	六三五、九六八	△二二、七三三

米本國向重要輸出品

品 名	昭和十六年上半期	昭和十五年上半期
生 糸	約一億七千八百萬圓	約一億四千萬圓
罐 瓶 詰 食 料 品	約八百萬圓	約四百萬圓
綿 織 物	約八百萬圓	約三百萬圓
茶	約四百萬圓	約二百萬圓

皇國內外の情勢



陶 磁 器

約四百萬圓

約六百萬圓

三〇

米本國よりの重要輸入品

品名	昭和十六年上半年	昭和十五年上半年
鑛油	約一億八千六百萬圓	約一億三千三百萬圓
鐵(屑及故ヲ含ム)	約五千五百萬圓	約一千三百六百萬圓
銅	約三千五百萬圓	約六千四百萬圓
棉	約一千六百萬圓	約一億二千四百萬圓
パルプ	約一千萬圓	約一千一百萬圓

備考

昭和十五年對米及比律賓輸出入額

米本國	比律賓	輸 出	輸 入	入(△)、出(○)超
五、六九、〇六四	二、二六、六九八	一、二四二、〇四五	六〇、八七一	△六七二、九八一
				△三四、一七三

滿洲國の近況

滿洲事變勃發以來茲に十年、滿洲國が名實共に極めて順調なる發展を遂げつゝあることは寔に同慶に堪へないところである。今最近の實情に就いて二、三記述して滿洲國の價値を再認識して見ることにしたい。

先づ第一に滿洲國治安の状況を見るに、現在匪賊と稱すべきものは總數二千四百六十名位となり、その過半数は熱河省南部に、その他は北安省の山中に残存するのみである。治安が豫想以上に良好となつたことは今次の軍事輸送開始以來謀略的事故皆無なりしことによつても之が明かである。

滿洲國一般の人心は最近に於ける我軍行動が活潑化して以來、頓に日本信頼すべしを念を深めてゐる。従來滿人間には日本はソ聯には到底勝ち得ざるべしとの一種の空氣が認められて居つたのであるが昨今この氣分は一掃せられた。しか

皇國內外の情勢

三三

し現在の満人を見るに、一部は親日的一部は反日的で、大部分のものは大勢順應の謂は、中間的のものであると云へよう。従つてわが軍の強化せられつゝある間は何等問題なきも一度び蹉跌を生ぜんが樂觀を許さないものがある。現在各民族は極めて平穩無事何等特異なる現象を認めない。在滿邦人は時局の緊迫感から非常なる意氣込みで活躍してゐるが、滿系下層民は經濟統制強化のため稍、險惡な空氣に向ひつゝあるやうである。自系露人の老人は獨ソ開戦に對し樂觀的考へを抱くものが多いが、青年層は祖國が敵國に蹂躪されつゝある現狀に對し寧ろ悲觀的であると云へる。又ソ聯人は引揚げ許可なかりしたため困惑の有様である。英米商人は資産凍結のため續々引上中で出先公館のものは兩者緊密なる連繫の下にソ聯人も之に加へ最近諜報活動を活潑に行ひつゝある。

滿洲國が當初喧傳せられたる程日本のために寄與しあらずとは屢、耳にすることであるが、今日日本の經濟は滿洲と離れては成立せず又滿洲國今日迄の重點

が國防問題であり、之がために多大の努力を拂ひ帝國の國防に隠れたる功績を擧げつゝあることを忘れてはならない。現に本年度純國防費として一億九千萬圓を帝國に寄與して居る。

滿洲の農産、石炭、鐵關係の經濟開發は順調なる發展過程を辿り、大體に於て光明面が見え始め、最近は頓みに活氣が現はれ出したものと決論し得られる。

今年農作物の發育は順調であつて大體に於て食糧農産物は二千六十五萬噸を獲得し得、大豆は四百五十萬噸程度を生産し得られるものと豫想せられる。昨年農作物の不作は内地人をして實質以上に滿洲國を悲觀視せしめた憾があつた。

鐵の内地向け五十萬噸は更らに七十萬噸近くに成績を向上しようとし石炭約二百七十萬噸を軍需に振向け別に内地向け約五十萬噸が豫定されてゐる。

問題は勞力の拂底であつて苦力六十萬に、今回十八萬の割當徴集を行ひ良好なる成績を収めてゐる。

一方在滿邦人の増加に伴ひ邦人子弟の教育が一つの深刻なる悩みとなつてをり、十五萬の小學生、二萬の中學生教育のため是非共之が指導者の素質の向上が叫ばれてゐる。

國內情勢

一 時局に對する市民の動向

時局に對する一般市民の偽らざる聲を浴場、停車場、路上、床屋、觀物場等に於ける談話を傍聽し之を政治、外交、軍事、經濟、思想、その他に分類して見ると概ね次の様である。

1. 政治關係

國家未曾有の難局に對處すべき國民の覺悟は既に出來て居るのにも拘らず、近時政府の態度には頗る不明確なるものがある。爲めに國民の士氣沈滞し社會不安増大の徵あるを以て、政府は速かに鞏固なる政治力を結集し果斷明快なる大方針を國民に明示すべしとの要望が多い。或は翼賛會、産報等の諸組織の一元化隣組の改善指導、町會費、警防費等の輕減、上層部に於ける國論の統一、軍

部出身大臣の排斥、物資配給並之が監督取締の適正化、下情上通に關する指導者の卒先垂範を要望する等その要望する處多岐に互る。之を要するに、今日國民は如何なる事態に直面するも動ずることなき覺悟十分なるを以て、政府は肚を割つて國民に向ふべき進路を示し、徒らに溫醸されんとする國民の不安を一掃し、一億一心たらしめる様強力政治を斷行すべしと謂ふにある。

2. 外交關係

英米蘇に對し武力解決以外に途なしと強硬外交を主張する者多く、日佛印共同防衛無血進駐の成功を讃へ南進策速時斷行を要望して松岡前外相を追慕する者が相當にある。

今次平沼國務大臣遭難事件に關しては同相を目し、親英米派なりしが爲めなりとし、日本外交の不振は國內上層部に親英米派多きが爲めである。また事變急速解決を希求して南北何れにしても可、即時開戦を叫ぶもの等特異なるもの

もある。

3. 軍事關係

對英米戦は不可避なりとして斷乎南進すべしとなし、或は獨逸に呼應して蘇聯の背後を衝き北方百年の大計を樹つべし等積極的軍事行動を要望し、之れを豫想する者が多い。しかし又之に反し事變の急速解決を要望し、召集の不平、出征遺家族の優遇、兵の待遇改善、生活不安等を口にするもの等亦多く、反戰的思想の萌あることは特に注意を要する。

4. 經濟關係

高度國防國家の建設、東亞共榮圈の確立等に就ては、系統的、原則的知識は持たざる者多きも、その必要性は承知してゐるやうで、國策の根本問題に對しては不平不満の聲がない。經濟問題としては何としても日常生活の不自由から來る不平不満が絶對的である。統制強化の窮窟化を覺悟しながらも、一時的に

襲來する野菜がない、菓子がない等の現象的事實に對する不平不満、希望である。次は現在の収入を以てしては生活困難となすもの特に負擔の過重を感じる發育盛りの子供に純綿物が欲しい等、一應肯定し得る理由のものもある。唯注意を要すると認められるものは一部富裕階級は如何なる品でも必要に應じ求められると稱し、之に對する不平が相等あることである。

5. 思想關係

英米依存と共に徒なる樞軸崇拜も亦日本の採るべき途に非ず、須らく日本精神を振起しこの國際難局を突破すべしとなし、現下思想界の混亂と、此等による國民思想の推移發展に恐るべきものがあるのを憂へる向が多い。危險思想は左右思想の區別なく斷乎彈壓取締を加ふべしと要望してゐる。又物資不足、増税による生活苦の増大、有産階級の時局認識不徹底等に相等熾烈なる憎惡の傾向を示し、殊に一部には最近の物資不足等を以て赤化の魔手の積極的謀略によ

るとなす者もある。又長期戦による戦争嫌悪と頹廢的感情を漏らす者等少數乍ら看取せられるが概して日本の現状に嫌らざる感じを抱く者が多く政府の諸政策の詭弱面より來る矛盾等を殊更に嘲笑せんとする傾向が認められる。

6. その他

國際關係の緊迫を犇々と感じてか、帝都の空襲は回避し難しとし、之に對する防空施設の必要性、老幼者の避難、重要品の地方輸送等を口にするものが多い。次に一部階級のもののみ利用し得る料理屋、待合等に屬する反感、銀座、新宿邊りにみる戦争を知らぬげの振舞者に對する非難、或は最近頼に普及化する隣組の運用就中組長の獨善的專行に對する不平が多い。特に注目されるのは市民の神經が尖鋭化し平常時ならば看過無關心なる程度の問題にも極めて鋭敏なる心理作用を來し居るが爲め、各種悪性の流言蜚語が多くなりつゝあることである。

二 國軍の體力問題

四〇

國軍の膨脹に伴ひ現役徵集人員は昭和十四年に於ては事變直前の約〇倍飛躍し、その受檢壯丁に對する比率は實に六割以上に達するに至つた。その結果第一乙種合格者をも亦現役兵として徵集せられるに至り、兵の體力は漸く低下し、曾つては現役兵に見ること能はざりし「胸圍身長ノ半ニ達セザルモノ」或は「筋骨薄弱なる者」近時相當數認められるに至つた。例へば小倉師團に於ては昭和十四年徵集兵中「胸圍身長ノ半ニ達セザルモノ」六六九名、人員千人に就き八五の比率を示し又同年姫路師團に於ける筋骨薄弱者は實に二〇一三名を算し入營兵の約四分の一に相當する。尙身長一米五十程度、體重四十數斤の兵に至つては之を事變前に於ける平均身長一米六四、體重六〇斤に比較する時如何にその弱少なるかを推察される。以上は現役兵に於ける狀況であるが、補充兵に於ては更らに甚しい。

斯の如く兵の體力は低下せるに拘らず、その衛生的環境は寧ろ悪化し、その結果は必然的に患者を激發するに至つた。特に結核性疾患者の如きは激増の一途を辿り底止する所を知らざる狀況である。内地部隊に於ては滿洲事變當時の人員毎千比二〇より昭和十四年には飛躍して四一、五となり、關東軍は更らに甚だしく、兩者を通じ患者總數約二萬五千に達する。尙ほ同年平病のみに起因して除役されたるものは全軍に於て實に三萬二千を突破し、その過半数は結核性疾患者の占むる所である。事變發生以來昭和十五年十月迄に大陸の野戦より還送せられたる結核性患者實に六萬二千有餘であつた。

以上述ぶる如く兵員の體力低下し且國民病たる結核性疾患の激發しつつあるは、實に軍の戦力を低下消耗するのみならず又實に近時重大化するわが人口問題にも累を及ぼすものであつて、之を戦時下に於ける一現象として放任するを斷じ

皇國內外の情勢

四一

て許さざる問題である。

四二

之が爲め軍當局に於ては健兵對策を眞劍に講じ之を軍隊及各作業廳に實施せしめることとなり特に幹部の保育並結核豫防に關する識能の向上に努めつゝある。國民體力の向上に關する國家施策に就ては曩に適齡前に於ける國民の體力を凡て國家に於て管理すべき劃期的制度の確立を見、その意義極めて重大にして之が育成擴充の今後に期待すべきもの甚だ多い。結核豫防に關しては本制度の確立のみに甘んずることなく各種の手段方法を具體化することが現下喫緊の要務である。

附録 赤軍に就て

はしがき

鎬を削る獨ソ兩軍一千萬の死闘は、歐洲戦局には勿論、世界情勢に重大なる影響を及ぼすものであつて吾人は戦局の推移に就て眞劍なる態度を以て之を検討し苟も情勢判断を誤ることがあつてはならない。從來獨逸軍の戦力に就いては凡ゆる角度から研究せられざるも、赤軍に就ては軍事専門家以外には真相を知る機會が少かつたのである、故にこの機會に赤軍の戦力に就いて述べて見よう。

一、ソ軍全般の動向

ソ聯邦は最近に於ける逼迫せる世界情勢に鑑み軍を強化するの熱意益々眞摯なるものがあつた。即ち作戰第一主義に基く軍制の大改革を斷行すると共に屢次に互る赤軍自體の實戦の體験及獨軍の對波對佛電撃作戰遂行の教訓等に基き、一面編制裝備戦法の研究、改善を圖りつゝ、他面實戦的教育訓練の徹底に邁進してゐたのであつた。

附録 赤軍に就て

四三

イ、統帥一元化の問題

作戦第一主義に基く軍制の大改革として、従来指揮官及軍事委員の二頭制の採用を特色としつゝあつたが、時局の重大化に伴ふ軍の飛躍的強化の要求はソ芬戦に於ける苦き體驗を直接の動機として昨年八月遂に軍事委員制を廢止し軍隊指揮官の下に政治副指揮官を置くことに改め赤軍従來の二元統帥の弊は劃期的に改善強化せられたものと考察せられて居つた。しかるに今次獨ソ開戦後再び軍事委員制を復活するに至つたのであるが之れは獨ソ開戦以來相次ぐ敗戦により軍隊監察機關なくしては戦闘遂行に自信がなくなつたためであらう。

ロ、指揮官の權威向上と軍紀の振肅

由來ソ軍はその建軍の特質上敢て明確なる階級制を採つてゐなかつたが、戦近戦闘に於ける高級幹部の役割益々重大となれるに鑑み、昨年五月高級幹部の階級制度を改編して、列國並のゲネラル及アドミラルの稱號を與へ、彼等の權威を向上せしめて軍紀の確立を圖ると共に他面彼等をして一層その職責の重大なるを自覺せしめ、以て軍事に關する研究を更らに深刻ならしめんと企圖して居り、各種の規則を發布するなど、軍紀の振肅に關するソ軍當局の熱意は眞に眞摯なるものがあつた。

今次獨ソ開戦以來ソ聯軍の頑強なる抵抗力に就いては、或は民族性或は革命以來の國民教育の徹底等が擧げられて居るが、更らにもう一つ督戦があると云へる。即ち假令軍司令官と雖も、卑怯な行爲ありとせば、假借なく之を一般民衆に暴露し、極刑に處してゐる。假令へば第十二軍、第二十八軍司令官の如き敵に降伏せりとの理由によつて空軍に告示されてゐる。か様に指揮官、政治部員に對しては非常なる刑罰を以て臨み、之をその家族に迄及ぼして居る。この點下士官兵は幾分軽くされてゐる。

ハ、作戦第一主義に基く人事の刷新

兵役法を改正して初級指揮官の素質向上を圖りつゝあつたソ軍當局は、その後高級幹部の階級制の改編を契機として、高級幹部に對する有能新進の拔擢及無能老朽の淘汰を斷行し、而もその際、従來の黨歴重視主義を廢して作戦第一主義に徹底せる跡歴然たるものがある。

今次獨ソ開戦以來その極端なる一例を擧げてみるに、某第一線大隊長が卑怯であつた場合、その部下に勇敢なる兵が認められた時には直ちにその一兵卒に大隊を指揮せしめると云ふ様な

附録 赤軍に就て

人事を平氣でやつて居る。これは統帥、指揮の技能よりも精神力を重要視した廣義の意味に於ける督戦であるとも云へる。

二、編制裝備の改善強化

實戦の教訓に基いて軍の編制、裝備を著々改善強化しつつあつた。

イ、軍の機械化

自動車化師團は昨年十月頃既に約二〇箇師團に達し、ザバイカル及外蒙に於ても合計五乃至六箇師團を數へるに至つた。又一般狙撃師團に於ける對戰車砲、聯隊砲、十二榴、十五榴（これは今次獨ソ戦に第一線部隊が使用して居る）等亦逐次機械化せられつゝあつた。軍團砲兵以上は既に殆んど全部機械化せられてある。更らに架橋及工兵技術部隊等の機械化も亦著々實施に移されてゐた。

ロ、火力裝備の充實

師團砲兵の二聯隊編成（輕砲聯隊と榴彈砲聯隊）は既に大部の師團に實現せられたのみならず一般に火砲口径増大の傾向顯著にして、優秀なる大威力重砲が逐次増加の趨勢にある。又近接

戰闘用火力としては從來の機關銃重視の思想より曲射火力の爆裂威力重視の傾向に躍進しつゝあること明かであつて、迫撃砲の裝備は飛躍的に増大しつゝある。

ハ、機甲兵力の強化

從來は快速の「ベーター」中型戦車を多數整備して居つたが「ソ」芬戦後陣地突破に使用すべき重戦車として「テ」二十八型（約二十五噸）を重視して之が大量整備に著手した他、更らに大型の五〇噸戦車をも祕かに大量製作し今次獨「ソ」開戦當初獨軍戦車團を大いに苦しめたことは吾人の記憶に新たなところである。

今次獨ソ開戦當時ソ軍の保有して居つた戦車總數は少くとも約一萬臺にして優秀なる獨逸軍機械化部隊のために七、八割の損害を出したものと見られる。

ニ、後方機關の整備

獨軍が大規模な電撃作戦を遂行し得たる所以のものはその偉大なる後方補給力によるところ甚だ大なりしになし、ソ芬戦に於けるソ軍の失態は補給及衛生機關の缺陷に因由するところ大なりし點に鑑み、最近ソ軍に於ては自動車輸送部隊及衛生部隊の充實強化に努めつつあつた。

附録 赤軍に就て

此等後方機關の教育訓練も眞面目に行はれて居つた。特に從來の自動車萬能主義に修正を加へ天候地形に即應する柔軟性を保持するため師團以下の後方輸送機關に於て動物輜重をも重視するの見解が有力化しつゝあつた。

三、實戰の經驗に基く教育訓練の動向

イ、幹部教育を重要視し將校及下士官の素質向上に努めつゝあつた。特に指揮官の精神的訓練に於ては意志の鞏固と斷行力の養成とを重視し又戰史研究の必要を高唱し、空理空論を排撃し或は外國の軍事文獻の研究を要求する等赤軍當局の熱意觀るべきもの尠くなかつた。

ロ、實戰的訓練を強調し緊急集合鐵道輸送行軍戰鬪等繼續せる複雑なる條件下の演習或は野營地の數回の移動による未知の地形下の訓練或はまた困難なる地形及天候の克服或は實戰に近い各種の肉體的苦痛を伴ふ長時間の訓練等すべて演習の構成を實戰的ならしめるに努めて居つた。

ハ、山地戰渡河戰(大河の渡河を含む)森林戰沼澤地戰等地障克服の訓練にも努力しつゝあつた。

ニ、夜間戰鬪白兵戰永久築城の攻防及偽裝並地物の利用等に關する研究訓練亦盛であつて、此等

も亦赤軍屢次の實戰の經驗に基くところ大であつた。

ホ、航空部隊の教育に關して最近盲目飛行夜間爆撃急降下爆撃急降下爆撃驅逐機の集團戰鬪高度飛行驅逐機を以てする偵察夜間高度よりする落下傘降下、瓦斯雨下等の訓練も亦盛んであつた。今次獨ソ戰開始以來ソ聯空軍勢力は獨逸空軍の不意襲撃により開戦劈頭制空權を奪はれ七、八割程度の大損害を蒙つてゐるやうである。

四、獨ソ開戦當時のソ軍狀況

六月二十二日開戦當時ソ聯軍の兵力は約五百萬と推定せられるが當時兵站部隊を完備してゐなかつた爲軍として完全な機能發揮し得ない状態に在つた。而も獨軍に急襲せられ開戦後下令した動員の完結には約一週間を要し六月二十九日頃より動員部隊は集中輸送を開始し、その戰場到着は早くとも七月二、三日頃となつたから此の間獨軍は破竹の勢を以て全線進撃を敢行し得たが、爾後は之を許さざるに至つた。ソ聯の人的資源よりすれば最大限約二千萬を動員し得るも、現在の動員兵力は恐らく一千萬乃至一千二百萬なるべく、之を戦列八百萬、兵站四百萬(内地部隊を含む)に大別し、戦列部隊中約百萬は極東にあるものとすれば約七百萬の兵力が直接獨

附録 赤軍に就て

ソ戦に参加してゐるものと云へる。

五〇

五、極東ソ軍の状況

ソ聯邦の極東軍備充實は概ね昭和十五年頃を目標として計畫實施せられりたるもの如く、昭和十四年末迄に二應之を概成したる觀がある。即ちその最終年度たりし昭和十四年度に於ては移駐及新編の狙撃師團數七箇を數へ總計三十箇師團となり正に飛躍的なる擴充強化を加へたが、爾後は概ね現状維持の状態に單に統帥組織及編制裝備の改革、國境陣地の改善、國境陣地の強化並豫備軍需品の集積等内容の整備充實に努めつゝある。獨ソ開戦後約七師團に相等する兵力を西送せるが、八月中旬より之を停止した。現在その兵力は狙撃部隊約二十七箇師團、飛行機、戰車各、約二千で其の總兵力は約百萬であらう。

動員を實施したるため、その總兵力は獨ソ開戦前よりも約三〇萬増加して居る實情である。ソ聯政治の特色として苛酷なる刑罰を以て軍規違反を豫防しあるため、逃亡者續出し、滿洲國領内に逃れ來れるもの、九月十日迄に既に十五名もある。

右陸軍部隊の外に極東海面には潜水艦約百隻を主體とする太平洋艦隊及河用砲艦を主體とする

黒龍艦隊あり、尙ほ外蒙には對日備兵力として外蒙軍騎兵數師團（一師團は約一千騎程度）がある。七月下旬以降極東ソ軍は國境方面の戰備を二層嚴ならしめ、全般の空氣は漸次緊張を加へつゝある。その一、二の實例を述べるに

燈火管制は嚴重に行はれ、國境附近滿鮮人を奥地に移轉せしめて居る。

國境警備は一段と強化せられ警備兵力平時の約二倍となり國境築城を増強し至嚴なる警備を實施して居る。一方滿洲國に對する謀略行爲は著しく増加し、細菌戦を行はんとする形跡もある。

第二線兵團にして既に國境近く推進せられたるもの、第一線兵團にして既に展開を命ぜられたるものがある模様である。

七月下旬頃より國境附近軍人家族の引揚を開始した。

太平洋艦隊は危険水域附近の防禦施設強化及哨戒を開始せる他、浦鹽附近に於ては艦艇の訓練を實施すると共に艦艇の修理を急ぎつゝある。

ひ す び

以上赤軍の實相に就いて述べたところより見ても、赤軍の戦力は質量共に相等程度に達しある

附録 赤軍に就て

五一

ものと謂へる。従つて今次獨ソ戦局が波蘭作戦、西方作戦、バルカン作戦に見たるが如き短期速戦即決主義通りに運ばざることば當然であるばかりでなく、獨逸軍の作戦が最小の犠牲を以て、戦果を擧げ且地域の占領よりもソ軍の撃滅に重點をおいてゐる事を見逃してはならないと思ふ。何づれにするも茲一、二ヶ月の間の戦況進展が極めて重大であつて、獨軍がレニングラード、モスコ、ハリコフの線に進出した際、獨ソ軍全般の状態が如何になつてゐるか、今後重大な意味を持つものである。



時局情報宣傳資料

昭和十六年十月二十五日

皇國內外の情勢 (第七號)

極秘

情報局

◎ 注 意

- 一、本冊子は當局一情報官の作製せるものを連絡調整の上編纂したものである。
- 二、本書の目的は關係官の職務遂行上の参考たらしむるに在るも、内容には祕に屬するものあるを以て保存取扱ひに就いては特に注意を望む。
- 三、本冊子は情勢の變化に伴ひ、時々改訂せらるゝことあるを以て、改訂版を受領せば速に新資料と差換へ、舊資料は焼却せられたい。
- 四、本冊子は職務上利用すべきものなるを以て、異動等の場合には必ず後任者に引繼ぐべきものである。

皇國內外の情勢(第七號)目次

はしがき

國際情勢	一頁
一、支那事變の現況	一
二、南方情勢	六
三、歐洲戰爭の現況	九
四、米國の情勢	一六
國內情勢	二三
一、翼賛壯年團の結成	二三
二、貿易杜絶の影響	三〇
三、主要生活必需物資需給の概況	四四

目次

一